

[1 行目～3 行目は空行とする] (以降, 空行は 9 ポイント, MS 明朝とする)

[4 行目と 5 行目] **題名は 14 ポイント, MS ゴシック, ボールド体, 行の中央に書く.**

[副題は 6 行目] **(副題は 11 ポイント, MS ゴシック, ボールド体, 行の中央に書く)**

[1 行あける] (題名, 副題は 1 行あたり 140 mm 以内とし, 適宜改行する)

[英文題名は 11 pt, Times New Roman, Bold Face, 行の中央に書く] **Atomization by Means of Hole Nozzle**

[英文副題は 11 pt, Times New Roman, Bold Face, 行の中央に書く] **(Theory of Atomization)**

[1 行あける]

[著者名は 10 pt, MS ゴシック, 行の中央に書く]

京都 太郎*,

東京 花子

[英文著者名は 9 pt, Times New Roman, 括弧付きで和文著者名の真下を書く]

(Taro KYOTO)

(Hanako TOKYO)

[著者所属は 9 pt, MS ゴシック, 英文著者名の真下を書く]

京都大学

東京大学

[英文所属は 9 pt, Times New roman, 括弧付きで著者所属の真下を書く]

(Kyoto Univ.)

(The Univ. of Tokyo)

[2 行あける]

In the previous paper, the authors presented several experimental results on the characteristics of atomization by means of a hole nozzle.

.....
.....
.....
.....
.....

(両端 15 mm インデント, 9 ポイント, Times New Roman)

.....
.....
.....

Keywords: Atomization, Hole Nozzle, Exciplex Method, Spray Angle,, Diameter

(キーワードは, 英文アブストラクトの次行に 5~10 語を記載する)

[2 行あける]

1. はじめに

[1 行あける]

章番号および章名は, **10 ポイント, MS ゴシック, ボールド体**で行の中央に書く. 第 2 章以後は, 章番号および章名の前後と本文の間は 1 行あける. ただし, 章や節が原稿用紙の最上段になった場合は, 前の文章と 1 行あけず, 第 1 行目に書く. 本文は, 9 ポイント, MS 明朝で書く.

[1 行あける]

1.1 節名が 2 行以上にわたる場合の書き方は, この例による

前の文章と 1 行あけ, 行の左端より 1 こまあけて節番号を書き, 1 こまあけて節名を **10 ポイント, MS ゴシック, ボールド体**で書く. 本文は次の行から 1 こまあけて書く. 新しい段落は, 1 こまあけて書く. 文章の区切りには読点としてはカンマ「,」を用い, 句点としては, ピリオド「.」を用いる (括弧を付して補足説明する場合, この例のように, 本文の句点の前に括弧を挿入し, 括弧内の文章の最後は句点を付さない).

句読点は, 1 こま分を使用するが, 行の最後の場合に限り, 追い込んでよい (禁則処理).

文献番号は, ^{(1),(2)} (カンマで区切る) または⁽³⁾⁻⁽¹⁰⁾のように上付文字で書く.

1.1.1 項名が 2 行以上にわたる場合の書き方は, この例による

前の文章との間は空行を設けないで, 行の左端より 1 こまあ [1 行程度あける]

けて項番号を書き, 1 こまあけて項名を **9 ポイント, MS ゴシック, ボールド体**で書く. 本文は次の行から 1 こまあけて書く. 項以下の区分は, (a), (b), ... などとし, その書き方は項の場合に準じる.

[1 行あける]

2. 図, 表の書き方

[1 行あける]

本文と図, 表の間は 1 行以上あける. また, 図番, 図題は図の真下中央に配置し, 表番, 表題は表の真上中央に配置する.

図題, 表題は英語で記述する. また, 図番, 表番は, それぞれ Fig.1, Fig.2, ... および Table 1, Table 2, ... のように通し番号として, 9 ポイント, Times New Roman で書く. 本文で引用する際, 図 1, 図 2, ..., 表 1, 表 2, ... とする.

また, 図, 表はできるだけ下側および右段に寄せて配置すると, 見栄え良く仕上がる.

[1 行あける]

3. 式の書き方

[1 行あける]

式は, 左端より 3 こま以上あけて書き, 式番号は括弧を付して右端に書く. 数学記号, 単位は, 9 ポイント, Times New Roman とし, 数式の書体は, 以下のようにイタリック体にする.

[1 行あける]

$$a = b \sin \alpha + c \tan \beta \quad (1)$$

[1 行あける]

$$b = \frac{d(e+f)}{g+h} \quad (2)$$

[1 行あける]

ここで, a : 液膜の厚さ [mm], ...

* 責任著者: 正会員, 京都大学 ← 会員資格, 所属を記入
(〒615-8530 京都府京都市西京区 1) ← 住所

E-mail: ← 責任著者のメールアドレスを記入

分数を書く場合、式(2)のような表記法を用いる。ただし、本文中に記述する場合、 $d(e+f)/(g+h)$ のように書く。
[1 行あける]

4. 図、表、式が両段にまたがる場合

[1 行あける]
本文、図、表、式、脚注、文献などは、原則として本原稿用紙の 1 段（片側）に書き、2 段（両側）にまたがって書かない。ただし、図、表、または式が 1 段（片側）に収まらない場合、2 段（両段）にまたがって書いてもよいが、この場合、[見本：Table 2]のように当該ページの最下段もしくは最上段に配置し、本文が図表によって中断されないように書く。
[1 行以上あける]

- ・図の外枠は表示しない。
- ・図中の文字は英語で表示する。
- ・文字の大きさは 9 ポイント以上とする。
- ・図番、図題は図の真下中央に英語で書く。
- ・他の文献より転載したときは、図題の直下に [Reproduced from Ref. (1)] と明記する。

Fig.1 Experimental apparatus

Table 1 Experimental condition

- ・表の外枠は表示しない。
- ・表中の文字は英語で表示する。
- ・文字の大きさは 9 ポイント以上とする。
- ・表番、表題は表の真上中央に英語で書く。
- ・他の文献より転載した場合、表題の直下に [Reproduced from Ref. (1)] と明記する。

[1 行以上あける]

5. おわりに

[1 行あける]
以上述べたように、本原稿用紙を用いて執筆する際に最も注意すべき点は、読者が読みやすいように配慮することである。
[1 行あける]

文 献

[1 行あける]
(1)京都太郎，仙台次郎：液化ブタン噴霧の特性，微粒化，10-5(2000)，145－148. ← [和文雑誌]
(2)Johnson, R., Schmidt, P., Thompson, G: Characteristics of Entrainment Spray, J. Atomization, 112 (2001), 28－30. ← [英文雑誌]
(3)今出川一郎：微粒化機器の設計，京都書籍(1995)，79－82，103. ← [和文書籍]
(4)Smith, T. A.: Mechanism of Atomization, London Pub. Inc. (1993), 34－39. ← [英文書籍]
.....途中省略.....
(10)日本微粒化学会編：微粒化の原理と実際，同慶出版会 (1991)，11－15. ← [和文書籍]

図、表が 2 段にわたる場合の書き方は、この例による。

Table 2 Properties of *n*-pentane and *n*-heptane

- ・図、表が 2 段にわたる場合の書き方は、この例による。
- ・図、表は、当該ページの最下段もしくは最上段に配置し、本文が図、表によって中断されないように書く。
- ・その他は、Fig.1 と Table 1 に準じる。